令和６年度　学校運営連絡協議会報告

１　組織

（１）協議会名称

令和６年度　東京都立墨田工科高等学校定時制課程学校運営連絡協議会

（２）事務局の構成

事務局長（教務主幹）、他１名　　計２名

（３）内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導部主任、進路指導部主任　　計６名

（４）協議委員の構成

近隣中学校校長、地元消防関係者、地元警察関係者、近隣町会代表、
保護者代表、同窓会会長等　　計７名

２　令和４年度学校運営連絡協議会の概要

（１）学校運営連絡協議会（１～３回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第１回　内容　　令和６年７月１８日
①　委嘱状交付
②　委員名簿
③　学校運営連絡協議会設置要項
④　令和６年度学校経営報告
⑤　令和６年度学校運営連絡協議会　実施報告書
⑥　学校経営計画
⑦　各分掌資料
⑧　年間行事予定

第２回　内容　　令和６年１２月２０日
①　学校概況報告
②　学校評価アンケートについて
③　意見交換

第３回　内容　　令和７年３月１８日
①　学校評価アンケート集計結果報告
②　各分掌からの報告
③　学校運営連絡協議会アンケート

（２）評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

評価委員会の構成　委員長―近隣中学校長、委員―協議委員２名
委　員－内部委員２名

第１回　内容　　令和６年１２月２０日
・学校評価アンケートの実施内容の確認
・地域住民の方へのアンケートの変更について

第２回　内容　　令和７年３月１８日
・アンケート結果報告

３　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

（１）学校運営全般

来年度も地域と連携した防災訓練の実施の他、地域と学校が連携できる活動に取組む必要がある。さらに、自営消防訓練の実施についても検討する。

引き続き、学校を知って頂くために、地域と連携した行事への取り組むことにより、地域に根差した学校づくりを推進していく。

（２）学習活動

一人一台端末（ＴＯＫＹＯスマート・スクール・プロジェクト）やＩＣＴ機器を十分に活用して、基礎学力の向上を図っていく。

（３）特別活動

生徒数が少ない中でも部活動や生徒会活動の活性化できるアイデアを考え実践することにより、種行事等を自主的・自立的に運営できる人材の育成を目指す。さらに、校外学習を充実することにより、いろいろな体験を通して進路選択の一助にする。

（４）生活指導

グループ・エンカウンターや教育相談等の充実を図り、生徒理解を進めると共に、基本的な生活習慣の確立、人権尊重の意識、自らの健康の保持増進に努め充実した学校生活が送れるよう指導する。

（５）進路指導

２・３年生全員によるインターンシップを実施した結果、仕事（働くこと）に対する意識が高まった。引き続き、系統的なキャリア教育の充実を図り、資格取得等を活用し目的意識と基礎学力の定着を進め、希望進路の実現を目指す。

４　「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

（１）協議委員人数　　７人

（２）学校がよくなったと答えた協議委員の人数（回答者３人）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
0	1	1	1	0	0

５　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】　本年度なし

学校評価アンケートの集計結果（令和６年度）

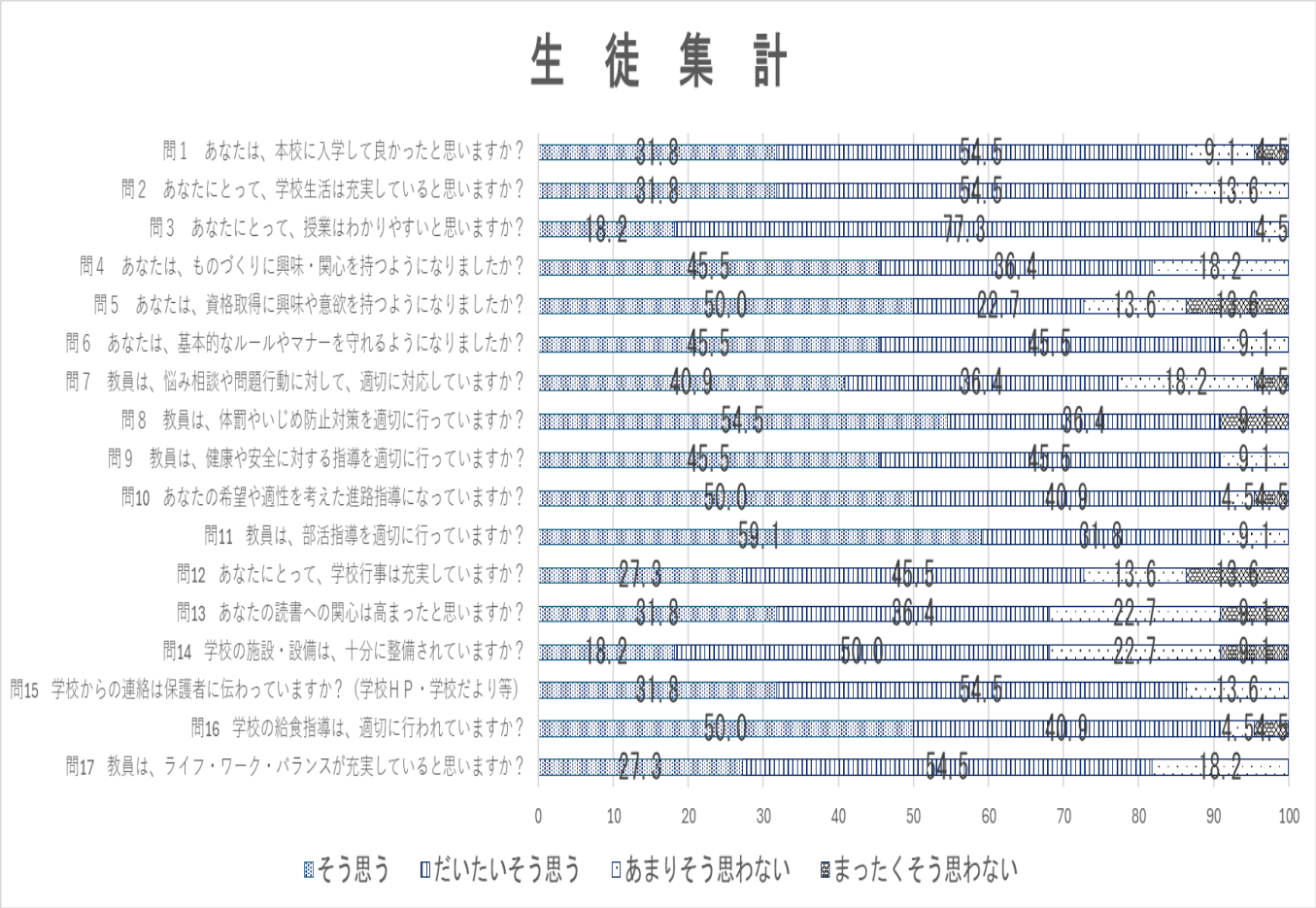
１　学校運営連絡協議会による学校評価

（１）学校評価の主な観点と内容
本校の教育活動が、生徒・保護者・地域等にどのように理解・認識されているかを知り、積極的な学校教育の改革改善に資する。

（２）評価の実施時期と対象及び方法
回収率　生　徒　８４．６％
　　保護者　１６．０％
　　教職員　５３．０％

（３）主な評価項目
学校全体に関すること、授業に関すること、生活指導に関すること、進路指導に関すること、学校行事特別活動に関することなど。

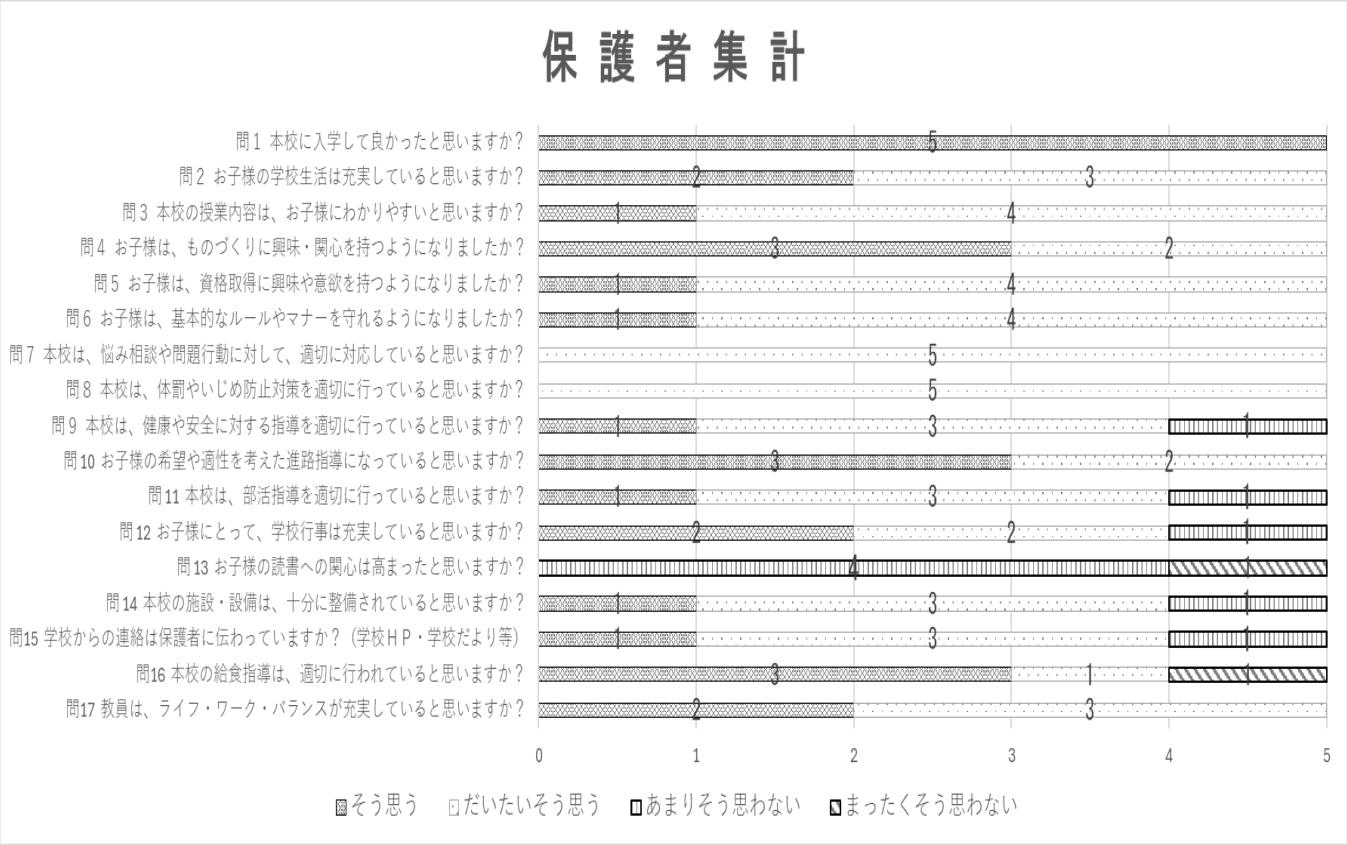
①　生　徒



ほとんどの回答が「Ａ：そう思う」、「Ｂ：だいたいそう思う」という肯定的であった。否定的な意見が多い回答は無く、一つだけ肯定的と否定的が同数の回答があり、「質問 13　あなたの読書への関心は高まったと思いますか。」であった。この質問の昨年の回答は、２５％が否定的な回答であったが、今年度は２７％とほぼ同じであった。

多くの生徒が「スポーツレクリエーション部 」に入り、先生と一緒に汗を流している。そのため、「質問 11　教員は、部活指導を適切に行っていますか。（昨年度９６％、今年度９０％）」の質問にほとんどの生徒が肯定的な意見であった。しかし、学校行事は「質問 12　あなたにとって、学校行事は充実していますか。」の回答が、昨年度は８４％が肯定的な意見であったが、今年度は、７３％に減少している。これは、生徒数が少なくなり、学校（行事）に活気が無いことが減少している原因のひとつと考える。

②　保護者

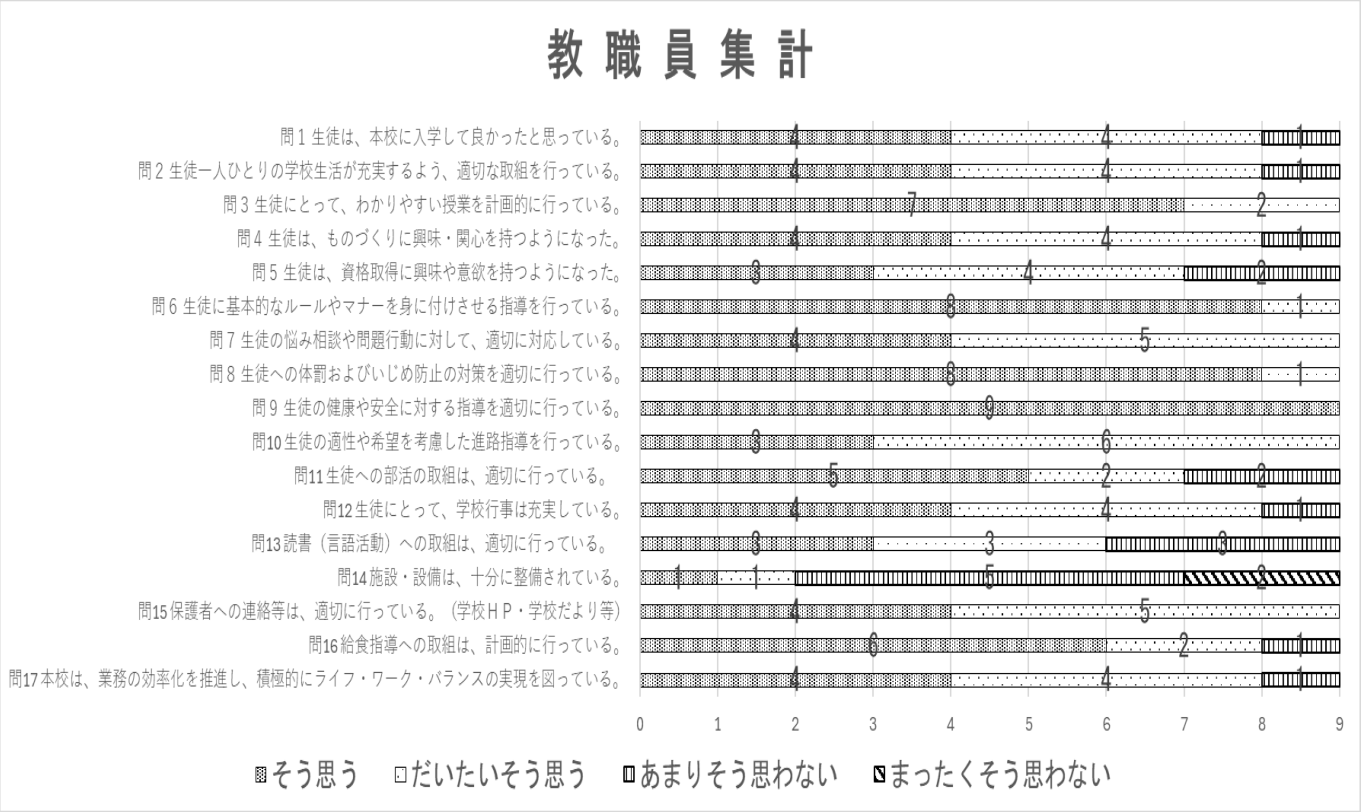


今回は、プリント配布でアンケートの協力をお願いして、スマホ等による回答にしたが、協力していただける方の人数は増えず、１年保護者４名、２年保護者１名の計５名であった。

これは、保護者の学校行事への参加が少ないことが考えられる。墨工祭でさえ、生徒の保護者１０組であった。この現状では保護者からの回答は期待できない。

少ない回答数ではあるが、ほとんどが肯定的な意見であり、生徒が元気で楽しく登校していることで、良い評価になったことが推測される。唯一否定的な回答は、「質問 13　お子様の読書への関心は高まったと思いますか。」で、全員の方が「生徒の読書への関心がない」と回答している。

③　教職員



多くが肯定的な回答であり、否定的な回答が目立つ項目は、２項目で、特に８割の職員が否定的な回答だった項目は、「質問 14　施設・設備は十分に整備されている」だけである。この質問の回答の傾向は昨年度と同じであり、老朽化している校舎と整備が進まない設備・備品の現状が現れている。

「質問 13　読書（言語活動）への取組は、適切に行っている。」は、昨年度より肯定的な回答が増えたが、保護者と生徒のこの質問に対する回答も改善はされたが、まだ低い現状である。引き続き、言語活動の充実に取組まなければならない。

（３）評価結果の考察

生徒と教職員回答について考察する。

ほとんどの回答傾向は、生徒・教職員ともにほぼ同じ傾向であった。

しかし、「問14　学校の施設・設備は、十分に整備されていますか？」の問いに対して、教職員の８割が、「整備されていない」と否定的な意見だったが、生徒の回答では、７割が整備されていると回答している。これは、生徒の授業満足度に比例していると考える。

教職員は、生徒が分からない所で、職員室の空調や水漏れ等の実害を受けている。教職員は、その苦労を生徒に明かさず、日々の授業に取り組んでいることが理解できる。